

改訂日 2025年06月27日 (第13版)

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	エリジャン乳剤
デザインコード	A6926E
会社名	シンジェンタジャパン株式会社
住所	〒104-6021 東京都中央区晴海1丁目8番10号オフィスタワーX 21階
担当部門	HSEグループ
電話番号	03-6221-1027
Eメールアドレス	SDS-JP@syngenta.com
緊急連絡先	同上
緊急連絡電話番号	日本中毒情報センター 中毒110番 一般市民向け受信相談(情報料無料): 大阪(365日・24時間): 072-727-2499 つくば(365日・24時間): 029-852-9999 医療機関専用有料電話(1件につき2000円): 大阪(365日・24時間): 072-726-9923 つくば(365日・24時間): 029-851-9999
推奨用途	除草剤
使用上の制限	推奨用途以外の用途に使用する場合は、専門家の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類	
引火性液体	区分4
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
皮膚感作性	区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系, 血液系)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(中枢神経系, 呼吸器)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(腎臓)
水生環境有害性 短期(急性)	区分1
水生環境有害性 長期(慢性)	区分1
GHSラベル要素	

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
H227 引火性液体。
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
H320 眼刺激。
H336 眠気又はめまいのおそれ。
H370 臓器 (中枢神経系, 血液系) の障害。
H372 長期にわたる、又は反復暴露による臓器 (中枢神経系, 呼吸器) の障害。
H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器 (腎臓) の障害のおそれ。
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策 P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P260 ミスト／蒸気を吸入しないこと。
P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置 P302 + P352 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
P304 + P340 + P312 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
P333 + P313 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること。
P337 + P313 眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。
P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370 + P378 火災の場合: 消火するために乾燥砂、粉末消火剤(ドライケミカル) 又は耐アルコール性フォームを使用すること。

- P391 漏出物を回収すること。
- 保管 P403 換気の良い場所で保管すること。
P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405 施錠して保管すること。
- 廃棄 P501 内容物や容器を廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性
知見なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

成分

化学名	CAS No.	含有量 (%)	化審法(ENCS)/ 安衛法 (ISHL) 番号
プレチラクロール	51218-49-6	12	4-(7)-1362(安衛法)
プロピレングリコール	57-55-6	62	2-234
1-ペンタノール	71-41-0	20	2-217
キシレン	1330-20-7	>=0.1 - <0.25	3-3, 3-60
トルエン	108-88-3	>=0.1 - <0.25	3-2, 3-60

4. 応急措置

- 一般的アドバイス 緊急連絡先、中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、製品容器、ラベル、安全データシートを手元に用意すること。
- 吸入した場合 被災者を空気の新鮮な場所に移す。
呼吸が不規則または停止している場合は、人工呼吸を行う。
患者を暖かく安静にしておく。
直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。
- 皮膚に付着した場合 直ちに汚染された衣服を脱がせる。
直ちに多量の水で洗い流す。
皮膚の炎症が続く場合は、医師に連絡すること。
汚染された衣服は再使用する前に洗濯すること。
- 眼に入った場合 直ちに、最低 15 分間はまぶたの内側も含め、多量の水ですすぐ。
コンタクトレンズをはずす。
直ちに医師の診察を受ける必要がある。
- 飲み込んだ場合 飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受け、この容器ないしラベルを見せること。
吐かせない。石油留分及び/または芳香族溶剤を含む。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸引すると肺浮腫と肺炎を起こす可能性がある。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 眼刺激。 眠気又はめまいのおそれ。 臓器の障害。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。
医療関係者への情報	専用解毒剤はない。 対症療法を行う。 吐かせない。石油留分及び/または芳香族溶剤を含む。

5. 火災時の措置

消火剤	小規模火災時: 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。 大規模火災時: 耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状水による消火は、火災が激しくなったり飛び火したりするので、行ってはならない。
特有の危険有害性	可燃性有機成分を含有するため、火災時に有害性物質を含む黒煙が発生する(「10. 安定性及び反応性」参照)。 分解生成物へのばく露は健康を害する可能性がある。 かなりの距離にわたり逆火が考えられる。
有害燃焼副産物	炭素酸化物 窒素酸化物(NOx) 塩素化合物
特有の消火方法	火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止する。 水を噴霧して密閉容器を冷却する。
消火を行う者の保護	完全な保護服と自給式呼吸器を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する予防措置	「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い必要に応じて保護具を着用する。 こぼれやもれが起きている場所から風上に避難させる。 蒸気がたまと爆発性濃縮物が生成されるので要注意。蒸気は低いところにたまる可能性がある。 付近の発火源となるものを取り除く。 逆火に注意する。
------------	--

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	安全を確認してから、漏出または流出防止の措置をとる。 河川または下水システムに排水しない。 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。
------------	---

封じ込め、浄化の方法及び機材

除去方法 漏出物を閉じ込め、不可燃性の吸収剤(砂、土、珪藻土、パーミキュライト等)を使用して集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる(「13. 廃棄上の注意」を参照)。
汚染面を十分に浄化する。
洗剤で拭く、溶剤は避ける。
汚染された洗浄水を保管し、処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項 皮膚や眼への接触を避けること。
使用中は飲食及び喫煙を禁止する。
耐炎性装置のある場所でのみ使うこと。
静電気放電に対して予防処置手段をとること。
個人保護については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照する。

接触回避

知見なし。

保管

安全な保管条件 容器を密閉して、乾燥した、涼しく換気の良い場所で保管する。
子供の手の届かないように保管すること。
可燃物から遠ざけること。
スプリンクラーのある場所に置く。
食品、飲料水、動物の餌から離しておく。
禁煙。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度

成分	CAS 番号	指標	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
プレチラクロール	51218-49-6	TWA	4 mg/m ³	Syngenta
トルエン	108-88-3	ACL	20 ppm	安衛法(管理濃度)
		OEL-M	50 ppm 188 mg/m ³	日本産業衛生学会(許容濃度)
		TWA	20 ppm	ACGIH
		詳細情報: 第1群: ヒトに対して生殖毒性を示すことが知られている物質, 経皮吸収		
キシレン	1330-20-7	ACL	50 ppm	安衛法(管理濃度)
		OEL-M	50 ppm 217 mg/m ³	日本産業衛生学会(許容濃度)
		TWA	20 ppm	ACGIH
		詳細情報: 第2群: ヒトに対しておそらく生殖毒性を示すと判断される物質		

生物学的職業ばく露限度

成分	CAS 番号	対象物質	生物学的試料	試料採取時期	許容濃度	出典
トルエン	108-88-3	トルエン	血液	週の後半の作業終了前2時間以内	0.6 mg/l	日本産業衛生学会
		トルエン	尿	週の後半の作業終了前2時間以内	0.06 mg/l	日本産業衛生学会
		トルエン	血液中	労働週の最終シフト前	0.02 mg/l	ACGIH BEI
		トルエン	尿	シフト終了時(ばく露停止後できるだけ早く)	0.03 mg/l	ACGIH BEI
		o-クレゾール	尿	シフト終了時(ばく露停止後できるだけ早く)	0.3 mg/g-Cr	ACGIH BEI
キシレン	1330-20-7		尿	週の後半の作業終了時	800 mg/l	日本産業衛生学会
			尿	シフト終了時(ばく露停止後できるだけ早く)	0.3 g/g クレアチニン	ACGIH BEI

設備対策

ばく露が避けられない場合、密閉および/または隔離することが、技術的に最も確実な防御手段となる。

保護対策の範囲は、使用時のリスクによって異なる。

空気濃度を職業ばく露基準以下に保つ。

必要に応じて、追加の労働衛生に関連する情報を求める。

保護具

呼吸用保護具

通常、呼吸用保護具は必要ない。

労働者がばく露限界値を超える濃度にさらされる場合、適切な認定呼吸器を使用すること

手の保護具

材質

ニトリルゴム

破過時間

> 480 min

手袋の厚さ

0.5 mm

備考

保護手袋を着用すること。適切な手袋を選ぶには、素材のみでなく、その他の品質に関する特徴を考慮する。製造者によっても違うので、その点にも注意する。手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する

眼の保護具	<p>る指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。破過時間は、素材の特徴の中でも、手袋の厚さと種類によって決定されるので、その時々測定されなければならない。手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候わずかにある場合でも、手袋を破棄し取り替えなければならない。</p> <p>密着性の高い安全ゴーグル</p> <p>製品と眼が不慮に接触する可能性を払拭できない状況では常時ゴーグルを着用すること。</p>
皮膚及び身体の保護具	<p>適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮する。</p> <p>汚染された衣服は洗浄してから再使用すること。</p> <p>必要に応じて不浸透性衣服を着用する。</p>
保護対策	<p>個人用保護具ではなく専門の保護具の使用を優先する。</p> <p>個人用保護具の選定については専門家のアドバイスを求める。</p>

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	黄赤色澄明
臭い	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
融点/凝固点	データなし
沸点, 初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性(固体、気体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	
爆発範囲の上限 / 可燃 上限値	データなし
爆発範囲の下限 / 可燃 下限値	データなし
引火点	64°C
分解温度	データなし
pH	データなし
蒸発速度	データなし
自然発火温度	データなし
粘度	
動粘度(動粘性率)	データなし
溶解度	データなし
水溶性	データなし
溶媒に対する溶解性	データなし
n-オクタノール/水分分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度	0.986 g/cm ³

相対ガス密度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
粒子サイズ	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	合理的に予想できるものは、なにもない。
化学的安定性	通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	通常の使用条件において既知の危険な反応はない。
避けるべき条件	指示通り使用すれば分解しない。
混触危険物質	知見なし。
危険有害な分解生成物	危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報	飲み込んだ場合 吸入した場合 皮膚に付着した場合 眼に入った場合
----------------	---

急性毒性

データが不足しているので分類されていない。

製品

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, オス及びメス): > 5,000 mg/kg
急性毒性(吸入)	急性毒性推定値: > 20 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 蒸気 方法: 計算による方法
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg この物質または混合物は急性の皮膚毒性はない。

成分

プレチラクロール

急性毒性(経口)	LD50 (ラット): > 2,000 mg/kg
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット): >5.08 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット): > 5,000 mg/kg

プロピレングリコール

急性毒性(経口)	LD50 (ラット): > 20,000 mg/kg
----------	----------------------------

	この物質または混合物は急性の経口毒性はない。
急性毒性(吸入)	LC50 (ウサギ): 317,042 mg/l ばく露時間: 2 h 試験環境: 粉じん/ミスト
急性毒性(経皮)	LD50 (ウサギ): > 2,000 mg/kg この物質または混合物は急性の皮膚毒性はない。

1-ペンタノール

急性毒性(吸入)	成分/混合物は短時間の吸引後若干有毒。
----------	---------------------

キシレン

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, メス): 3,523 mg/kg
----------	-----------------------------

急性毒性(吸入)	LC50 (ラット): 27.124 mg/l
----------	-------------------------

ばく露時間: 4 h

試験環境: 蒸気

急性毒性(経皮)	LD50 (ウサギ): 12,126 mg/kg
----------	--------------------------

トルエン

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, オス): 5,580 mg/kg
----------	-----------------------------

急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オス): 25.7 mg/l
----------	---------------------------

ばく露時間: 4 h

試験環境: 蒸気

この物質または混合物は急性の吸入毒性はない。

急性毒性(経皮)	LD50 (ウサギ, オス): > 5,000 mg/kg
----------	-------------------------------

皮膚腐食性/刺激性

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

製品

種	ウサギ
結果	皮膚刺激性なし。

成分

プレチラクロール

種	ウサギ
結果	皮膚刺激性なし。

プロピレングリコール

結果	皮膚刺激なし。
----	---------

1-ペンタノール

種	ウサギ
結果	皮膚刺激性あり。

キシレン

種	ウサギ
---	-----

結果 皮膚刺激性あり。

トルエン

種 ウサギ

結果 皮膚刺激性あり。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼刺激。

製品

種 ウサギ

結果 眼への刺激、7日以内に回復。

成分

プレチラクロール

種 ウサギ

結果 眼への刺激性なし。

プロピレングリコール

結果 眼への刺激なし。

1-ペンタノール

種 ウサギ

結果 眼への刺激性あり。

キシレン

種 ウサギ

結果 眼への刺激性あり。

トルエン

種 ウサギ

結果 眼への刺激性なし。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

製品

種 モルモット

結果 皮膚に触れると感作を起すことがある。

成分

プレチラクロール

種 マウス(試験タイプ:局所リンパ節増殖試験(LLNA))

結果 皮膚感作性あり。細区分 1B。

プロピレングリコール

結果 皮膚感作性なし。

キシレン

種 マウス(試験タイプ:局所リンパ節増殖試験(LLNA))

結果 皮膚感作性なし。

トルエン

種 モルモット
結果 皮膚感作性なし。

呼吸器感作性

データが不足しているので分類されていない。

生殖細胞変異原性

データが不足しているので分類されていない。

成分

プレチラクロール 動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。
プロピレングリコール 動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。
1-ペンタノール 動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。
根拠が薄く生殖細胞突然変異源として分類することはできない。
キシレン 動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。
トルエン 動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。

発がん性

データが不足しているので分類されていない。

成分

プレチラクロール 動物実験において発がん性の証拠はない。
プロピレングリコール 動物実験において発がん性の証拠はない。
1-ペンタノール 発がん性物質として分類されない。
証拠の重要性からすると、発がん性物質として分類されない。
キシレン 動物実験において発がん性の証拠はない。
トルエン 動物実験において発がん性の証拠はない。

生殖毒性

データが不足しているので分類されていない。

成分

プレチラクロール 生殖に対する毒性はない。
動物実験で催奇形性は示さなかった。
プロピレングリコール 生殖に対する毒性はない。授乳への、および授乳による影響はない。
1-ペンタノール 生殖に対する毒性はない。
キシレン 生殖に対する毒性はない。授乳への、および授乳による影響はない。

トルエン

動物実験によると発育に悪影響があることが一部立証されている。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

眠気又はめまいのおそれ。

臓器(中枢神経系, 血液系)の障害。

成分

プロピレングリコール

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(単回ばく露)としては未分類。

1-ペンタノール

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、単回ばく露、気道炎症を伴う区分3に分類される。

キシレン

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、単回ばく露、気道炎症を伴う区分3に分類される。

トルエン

暴露の主経路 吸入

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、単回ばく露、麻酔性効果を伴う区分3に分類される。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

長期にわたる、又は反復暴露による臓器(中枢神経系, 呼吸器)の障害。長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(腎臓)の障害のおそれ。

成分

プレチラクロール

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)としては未分類。

プロピレングリコール:

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)としては未分類。

キシレン

標的臓器 中枢神経系, 腎臓, 肝臓。

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、反復ばく露、区分2に分類される。

トルエン

暴露の主経路 吸入

標的臓器 中枢神経系

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、反復ばく露、区分2に分類される。

誤えん有害性

データが不足しているので分類されていない。

成分

プロピレングリコール

アセスメント 吸引性呼吸器有害性には分類されていない。

キシレン

アセスメント 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

トルエン

アセスメント 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

12. 環境影響情報

生態毒性

製品

魚毒性	LC50 (Cyprinus carpio (コイ)): 12.81 mg/l ばく露時間: 72 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	LC50 (Daphnia magna Straus (オオミジンコ)): 42.9 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生生物に対する毒性	ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.0089 mg/l ばく露時間: 72 h 最大無影響濃度 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.0022 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 72 h

成分

プレチラクロール

魚毒性	LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 1.6 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50(Daphnia magna Straus (オオミジンコ)): 7.3 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.0028 mg/l ばく露時間: 72 h 最大無影響濃度 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.00054 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 72 h
	ErC50 ((Lemna gibba G3(イボウキクサ)): 0.0038 mg/l ばく露時間: 7d 最大無影響濃度((Lemna gibba G3(イボウキクサ)): 0.00028 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 7 d
M-ファクター (水生環境有害性短期(急性))	100
魚毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度(Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.58 mg/l ばく露時間: 28 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Daphnia magna Straus (オオミジンコ)): 0.48 mg/l ばく露時間: 21 d
M-ファクター (水生環境有害性長期(慢性))	100
微生物に対する毒性	EC50 (活性汚泥): > 100 mg/l ばく露時間: 3 h

プロピレングリコール

魚毒性	LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 40,613 mg/l ばく露時間: 96 h 試験タイプ: 止水式試験
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50 (Ceriodaphnia dubia (ミジンコ)): 18,340 mg/l ばく露時間: 48 h 試験タイプ: 止水式試験
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 19,000 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Ceriodaphnia dubia (ニセネコゼミジンコ)): 13,020 mg/l

ばく露時間: 7 d
試験タイプ: 半静止試験

キシレン

藻類／水生生物に対する毒性 EC50: 2.2 mg/l
ばく露時間: 72 h
最大無影響濃度: 0.44 mg/l
曝露時間: 72 h

トルエン

魚毒性 LC50 (Oncorhynchus kisutch(ギンザケ)): 5.5 mg/l
ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に
に対する毒性 EC50 (Ceriodaphnia dubia (ミジンコ)): 3.78 mg/l
ばく露時間: 48 h
魚毒性 (慢性毒性) 最大無影響濃度 (Oncorhynchus kisutch(ギンザケ)): 1.39 mg/l
ばく露時間: 40 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に
に対する毒性 (慢性毒性) 最大無影響濃度 (Ceriodaphnia dubia (ニセネコゼミジンコ)): 0.74 mg/l
ばく露時間: 7 d

残留性・分解性

成分

プレチラクロール

生分解性 易分解性ではない。
水中での安定性 分解半減期: 4 - 6 d
製品は持続性ではない。

プロピレングリコール

生分解性 易分解性。

1-ペンタノール

生分解性 易分解性。

キシレン

生分解性 易分解性。

トルエン

生分解性 易分解性

生体蓄積性

成分

プレチラクロール

生体蓄積性 生物濃縮されない。
n-オクタノール／水分配係数 log Pow: 3.9 (25 ° C)
(log 値)

トルエン

生体蓄積性 生物濃縮されない。

土壤中の移動性

成分

プレチラクロール

環境中の分布 地中において低移動性。
土中での安定性 消失時間: 11 - 64 d
消失割合: 50 % (DT50)
製品は持続性ではない。

オゾン層への有害性

非該当

プレチラクロール

PBT および vPvB の評価結果 内分泌かく乱の可能性	物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。 物質には内分泌かく乱特性はない。
1-ペンタノール	
PBT および vPvB の評価結果	物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。
トルエン	
PBT および vPvB の評価結果	物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法	
残余廃棄物	薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しないこと。 廃棄物を下水へ排出してはならない。 可能ならば、廃棄や焼却処理より再利用する方が好ましい。 リサイクルできない場合は、地域の規制に従って処分する。
汚染容器及び包装	残りの内容物を空にすること。 容器は3回すすぐ。 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。 空の容器は再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)

国連番号	UN3082
国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (PRETILACHLOR)
国連分類	9
容器等級	III
ラベル	9
環境有害性	該当
備考	この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は5L以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味量が5kg以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

航空輸送(IATA-DGR)

国連番号	UN3082
国連輸送名	Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s. (PRETILACHLOR)
国連分類	9
容器等級	III
ラベル (Labels)	Miscellaneous

梱包指示(貨物機) (Packing instruction (cargo air-craft))	964
梱包指示(旅客機) (Packing instruction (cargo air-craft))	964
環境有害性	該当
備考	この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

海上輸送(IMDG-Code)

国連番号	UN3082
国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (PRETILACHLOR)
国連分類	9
容器等級	III
ラベル	9
EmS コード (EmS Code)	F-A, S-F
海洋汚染物質	該当
備考	この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)

供給された状態の製品には非該当

国内規制

特定の国内規制については、「15.適用法令」を参照。

緊急時応急措置指針番号 171

特別の安全対策

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのために、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいている。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性がある。

15. 適用法令

関連法規

農薬取締法

登録番号 第 18163 号

消防法

第四類, 第二石油類, 非水溶性液体, (1000 リットル), 危険等級 III

化審法

優先評価化学物質

化学名	番号
-----	----

プロパン-1, 2-ジオール	106
トルエン	46
キシレン	125

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質(既存化学物質)

非該当

変異原性の認められた化学物質(新規届出化学物質)

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量(%)	備考
プレチラクロール	12.0	—
プロピレングリコール	62.0	—
1-ペンタノール	20	—
トルエン	>=0.1 - <0.25	—
キシレン	>=0.1 - <0.25	—

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考
プレチラクロール	—
プロピレングリコール	—
1-ペンタノール	—

皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第 594 条の2)

化学名
プレチラクロール

がん原性物質(労働安全衛生規則第 577 条の2)

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物)

引火性の物

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

第1 種指定化学物質

化学名	管理番号	含有量
プレチラクロール	100	12.0

高压ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 有害物質

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: その他の有害物

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送 有害液体物質(Z 類)

個品輸送 海洋汚染物質

水質汚濁防止法

指定物質(法第2条4項、施行令第3条の3)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

特別管理産業廃棄物

16. その他の情報

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含む。2 項には政府による GHS 分類結果が反映されているため、11 項及び 12 項の試験結果と合致しない場合がある。

記載内容の取扱い

製品安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考資料として、当該化学製品を取扱う事業者を提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の目的への適合性を判断し、この安全データシートや製品ラベルに記載のものを含め、実状に応じたあらゆる適切な予備的措置を講じてください。

当社のいかなる保証違反においての責任は、製品の交換又は購入額の払い戻しに限られます。当該製品を取扱う事業者が、上記の適切な予備的措置を講じなかった場合、シンジエンタは責任を負いません。

その他の略語全文

ACGIH

米国。ACGIH 限界閾値(TLV)

ACGIH BEI

ACGIH - 生物学的ばく露指標(BEI)

安衛法(管理濃度)

作業環境評価基準、健康障害防止指針

日本産業衛生学会

許容濃度等の勧告 - II.生物学的許容値

日本産業衛生学会(許容濃度)

日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I.化学物質の許容濃度

ACGIH / TWA

8 時間、時間加重平均

安衛法(管理濃度) / ACL

管理濃度、基準濃度

日本産業衛生学会(許容濃度) / OEL-M

許容濃度